

ID	発症日	発症番号	製造会社	製品名	成分	原料	製造工程	有効成分	有害成分	有害成分	有害成分	発症(PT)	出典	概要
												口蹄疫	OIE 2009 August 4	コロンビアにおける口蹄疫:発生日 2009年8月4日、最初の確定日 2009年8月4日、報告日 2009年8月4日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2009年7月29日にNARINO Ipiales ElCharcoで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ウシ22頭およびブタ9頭、発生頭数ブタ9頭、死亡例0頭であった。発生農場では全ての家畜が処分された。
												ブルセラ症	OIE 2009 August 3	ドイツにおけるブルセラ症:発生日 2009年6月9日、最初の確定日 2009年6月10日、報告日 2009年8月3日、原因 ブタ流産菌。2009年6月9日にMECKLENBURG-VORPOMMERN Muritz Melzでブルセラ症のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ブタ4463頭、発生頭数ブタ22頭、死亡例22頭であった。発生農場では全ての家畜が処分された。
												エボラ出血熱	CDCR Weekly 2009 July 17	2008年5月にフィリピンでブタからエボラレストン株が検出された。この株の研究者は、この株はヒトでの発病にはつながらないが、ヒトの食物連鎖における危険性を懸念している。ブタ群は、レストン株がヒトで発病する型へと変異するのに都合のよい宿主である可能性があり、また、ヒトに害を及ぼす他のエボラ株の宿主にもなる可能性が懸念されている。
179	2009/10/9	90587	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	ウシ血液	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
180	2009/10/13	90588	扶桑薬品工業	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの腸粘膜	米国、カナダ、中国	有効成分	有	無	無	インフルエンザ	Eurosurveillance 2009; 14: 1-2	2008年11月8日、スペイン北東部、家内養豚場勤務の50歳女性がインフルエンザ様症状を発症し、ブタインフルエンザAH1N1が検出された。近縁者、同僚等での症状は認められていない。
												インフルエンザ	CDC FluView Week8 ending 2009 February 29	2009年2月22-28日における米国内インフルエンザの推移状況。インフルエンザA(H1,H3, unsubtype)およびBの感染状況などの報告が述べられており、新規インフルエンザA(H1N1)ウイルスのヒトへの感染例は1例であり、病気のブタとの接触があった。
												インフルエンザ	CDC/MMWR 2009; 58: 369-374	新規のインフルエンザAウイルスに関して、2009年2月28日にアイオワ州からブタインフルエンザA(H1N1)の3歳男児への感染例が報告された。ブタへの密接な接触が確認されており、男児は回復した。米国における今シーズン3例目のブタインフルエンザ感染例である。

ID	発症日	発症地	製薬会社名	成分	原料由来	原料産地	有効成分	有	無	無	無	真正偽造 検査	感染症 (PT)	出典	概要
													サルモネラ	Eurosurveillance 2009; 14: 1-6 2009 March 12	2008年11-12月、ノルウェイおよびデンマークはそれぞれMLVA法で分類されるSalmonella Typhimurium感染によるアウトブレイクを特定した。デンマークでは全37症例が特定され、ノルウェイでは10例、スウェーデンでは4症例が特定された。スウェーデンで購入したデンマーク産肉が可能性のある感染源として示された。12月19日にノルウェイから警告がなされ、デンマークおよびノルウェイのアウトブレイクは同一であり、3国すべてのアウトブレイク感染源はデンマーク産豚肉由来である事が確認された。MLVAは異なる圏間でのアウトブレイクをつなぎ、感染源を追跡する方法として有効である。
													インフルエンザ	KAKE 10 abc news 2009 August 6	カンザス州ライリー郡在住の子供が一般的にはヒトに感染しないブタインフルエンザH3N2ウイルスに感染した。他に確認された症例はなく、調査中である。H3N2ウイルスは北アメリカのブタ間で一般的に流行しており、4月中旬に米国で初めて検出されたブタ由来パンデミック H1N1ウイルスとは異なる。カンザス州当局は、H3N2ウイルスはパンデミックH1N1ウイルスとは関係していない事、およびパンデミックH1N1ウイルスの変異や組換えによるウイルスではなく、現時点では、ヒトの健康に脅威を及ぼしてはいないと報告した。子供はブタとの直接の接触があり、7月末に感染したと考えられ、インフルエンザ様症状を呈したが完全に回復し、家族からの病気の報告はなかった。
													インフルエンザ	N Engl J Med 2009; 360: 2616-25	米国での2005年から2009年における調査の報告。3種(トリ、ヒトおよびブタ)が再集合したブタインフルエンザA(H1)ウイルスのヒトへの感染についての11症例の報告。
181	2009/10/13	90589	田辺三菱製薬株式会社	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの小腸粘膜	中国、アメリカ、カナダ、オーストラリア	有効成分	有	無	無		新型インフルエンザ (H1N1)	WHO/EPR 2009 April 24	米国、メキシコにおけるインフルエンザ様疾患について：米国政府は米国内の7人の豚インフルエンザA/H1N1確定症例(5人がカリフォルニア、2人がテキサス)と9人の疑いがある症例を報告した。死亡症例は報告されていない。メキシコ政府は3つの別々の事例を報告しており、メキシコ連邦区ではインフルエンザ様疾患が拳がり始め、4月23日までに854人以上の肺炎が発生し、うち、59人は死亡している。
													新型インフルエンザ (H1N1)	WHO/EPR 2009 April 26	2009年4月26日現在、米国政府はブタインフルエンザA/H1N1感染を確認した20症例を報告した。全20例は軽度のインフルエンザ様症状を呈し、1例が入院した。メキシコ政府は4月26日現在、ブタインフルエンザA/H1N1感染を確認した18症例を報告した。WHOとGOARN(Global Outbreak Alert and Response Network)はメキシコ当局に協力するため専門家を派遣した。

									修正 追加 削除		承認 日付	出品	概要
												WHO/EPR 2009 April 29	2009年4月29日、WHO事務局長Margaret Chan博士は声明を発表し、インフルエンザパンデミックの警戒レベルをフェーズ4から5に引き上げる決定をした。インフルエンザパンデミックは世界中のすべての国に広がる可能性があるため、深刻かつ正確に捉える必要がある。すべての国は速やかにパンデミックの準備計画を実行に移し、現段階では、監視を強化する一方で早期に症例を検出し、全医療機関における感染防止が効果的かつ必須手段である。
												CDC 2009 September 22	2009年9月22日、米国CDCは2009-2010におけるインフルエンザ治療と予防のための抗ウイルス薬の処方に関して臨床医に向けて追加ガイダンスを提供するために推奨案を更新した。原則、この時期の抗ウイルス薬の優先使用は、引き続きインフルエンザで入院したヒトおよびインフルエンザに関連した合併症のリスクが高いヒトであり、推奨案について最初の概要を2009年5月6日に示し、9月8日に改訂した。今回の文書は以下の目的で更新された。 1.臨床医に向け、合併症のリスクや乳幼児への治療についての追加内容と助言を提供する。 2.神経筋および神経認知障害のある患者はインフルエンザに関連した合併症のリスクが高まるが、そうした障害と関連が示唆される身体的疾患についての詳細情報を提供する。 3.用量計量器における測定単位および調剤指導が適正である事を確実にするために、タミフル経口用懸濁剤の包装にある経口投与ディスペンサーに関する情報を提供する。
												CDC/MMWR 2009; 58: 453-458 (2009 May 8)	90572に同じ
												厚生労働省 事務 連絡 2009 May 9	2009年5月9日、厚生労働省は各都道府県、政令市および特別区の新型インフルエンザ担当部宛に新型インフルエンザ患者の発生に関わる対応について事務連絡を傳達した。5月8日に米国デトロイト経由で帰国した3名に新型インフルエンザウイルスが検出されたが、入国前に確認されたため「新型インフルエンザ対策行動計画」における第2段階にはあたらない。現時点で体制整備を図る5つの事項について明示した。
												WHO 2009 June 11	2009年6月11日、WHO事務局長Margaret Chan博士は声明を発表した。WHOはインフルエンザパンデミックの警戒レベルをフェーズ5から6に引き上げ、世界は2009インフルエンザパンデミックの始まりにある。各国は高い警戒態勢を維持し、感染防御の実施などについて協力するよう呼びかけた。

ID	発現日	番号	製造者名	成分・性状	使用部位	商品名	原産国	有効成分	有	無	無	無	感染症(PT)	出典	概要
													新型インフルエンザ (H1N1)	厚生労働省 Press Release 2009 August 15	2009年8月15日、厚生労働省は報道関係者に新型インフルエンザ患者の死亡例について発表した。死亡例は沖縄県在住の50代男性で、感染源は不明である。慢性腎不全による透析のため通院中、8月10日には感冒症状と36度台の発熱があったがA型陰性であり、8月12日、39度の発熱がありA型陽性であった。タミフル投与後入院治療したが、8月14日、うっ血性心不全が疑われ、15日には循環不全となり死亡された。PCRの結果、新型インフルエンザ陽性を確認した。
													新型インフルエンザ (H1N1)	厚生労働省 Press Release 2009 August 4	2009年8月4日、厚生労働省は報道関係者に大阪府より感染症法に基づく急性脳炎としての届出がなされたと発表した。8月3日のPCR検査結果により、新型インフルエンザの感染が確認された患者(5歳男子、豊中市在住)は急性脳炎(インフルエンザ脳炎)を発症したが、4日には脳炎の症状は残存するものの、解熱し、回復に向かった。
182	2009/10/14	90590	武田薬品工業	乾燥弱毒生風しんワクチン - 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ウサギ腎細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程	無	無	無				
183	2009/10/14	90591	化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	アンチトロンビンⅢ	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無		マラリア	CDC/MMWR 2009; 58; 229-232	90498に同じ
													細菌感染	日本細菌学会第82回総会(2009 March 12,13,14) P2-182	90498に同じ
													新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58; (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
													新型インフルエンザ (H1N1)	厚生労働省 新型インフルエンザに関する報道発表資料 2009 May 16	90498に同じ
184	2009/10/14	90592	化学及血清療法研究所	人免疫グロブリンヒスタミン加人免疫グロブリン製剤	免疫グロブリン	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無		マラリア	CDC/MMWR 2009; 58; 229-232	90498に同じ

ID	登録日	承認番号	製剤名	原料	製法	製造国	製造工程	無菌	無熱	無毒素	感染症(PT)	出典	概要	
											細菌感染	日本細菌学会第82回総会 (2009 March 12,13,14) P2-182	90498に同じ	
											新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58; (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ	
											新型インフルエンザ (H1N1)	厚生労働省 新型インフルエンザに関する報道発表資料 2009 May 16	90498に同じ	
185	2009/10/14	90593	化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人活性化プロテインC 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅲ因子	マウス由来モノクローナル抗体	マウス脾臓	日本	製造工程	無	無	無			
186	2009/10/14	90594	化学及血清療法研究所	乾燥はぶウマ抗毒素 乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ガスエウマ抗毒素 ガスエウマ抗毒素 乾燥ソフテリアウマ抗毒素 乾燥ボツリヌスウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	ペプシン	ブタ胃	米国	製造工程	有	無	無	新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58; (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
187	2009/10/14	90595	ジェンザイム・ジャパン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブ	ウマ血漿	フランス	有効成分	無	無	無			
188	2009/10/14	90596	ジェンザイム・ジャパン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	胸腺細胞	ヒト胸腺	ベルギー、スペイン、フランス、イタリア、リトアニア、ポーランド、ノルウェー、デンマーク、スウェーデン、フィンランド、スロバキア、チェコ共和国	製造工程	無	無	無			
189	2009/10/14	90597	ジェンザイム・ジャパン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	赤血球ストローマ	ヒト血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
190	2009/10/14	90598	ジェンザイム・ジャパン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	胎盤組織	ヒト胎盤	フランス	製造工程	無	無	無			
191	2009/10/14	90599	あすか製薬	精製下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン	ヒト尿	中国	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	製造会社	製品名	原料名	原料名	製造国	有効成分	文	症	修正 使用 位置	感染症 (PI)	出典	概要
192	2009/10/14	90600	あすか製薬	日局ヒト下垂体性 性腺刺激ホルモン	下垂体性 性腺刺激 ホルモン	ヒト尿	中国	有効成分	無	無	無			
193	2009/10/16	90601	デンカ生研	乾燥組織培養不 活化A型肝炎ワク チン	ウシ血清	ウシの血液	製造中止に より記載なし	製造工程	無	無	無			
194	2009/10/16	90602	デンカ生研	乾燥組織培養不 活化A型肝炎ワク チン	ウシ胎児 血清	ウシ胎児の 血清	製造中止に より記載なし	製造工程	無	無	無			
195	2009/10/16	90603	デンカ生研	乾燥組織培養不 活化A型肝炎ワク チン	DNase I	ウシの膵臓	製造中止に より記載なし	製造工程	無	無	無			
196	2009/10/16	90604	デンカ生研	乾燥組織培養不 活化A型肝炎ワク チン	RNase A	ウシの膵臓	製造中止に より記載なし	製造工程	無	無	無			
197	2009/10/16	90605	デンカ生研	乾燥組織培養不 活化A型肝炎ワク チン	トリブシン	ブタの膵臓	製造中止に より記載なし	製造工程	有	無	無	インフル エンザ	CDC/MMWR 2009; 58 (Dispatch); 1-3 (2009 April 21)	90572に同じ
												新型インフル エンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58 (Dispatch); 1-3 (2009 April 28)	90572に同じ
												新型インフル エンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58 (Dispatch); 1-3 (2009 April 30)	2009年3月から4月上旬にかけてメキシコで呼吸器疾患のアウト ブレイクが発生した。3月1日から4月30日までに合計1918例 の重症呼吸器疾患症例が報告され、うち286例がインフルエン ザA陽性、97例がRT-PCRにより新型インフルエンザA/H1N1と 確定された。死亡例は合計84例が報告された。このインフル エンザウイルスはカリフォルニアの小児患者2例から同定された ウイルスと同一の株であることが判明した。
												新型インフル エンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58; 453-458 (2009 May 8)	90572に同じ
												新型インフル エンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58 (Dispatch); 1-3 (2009 May 12)	90572に同じ

ID	採得日	番号	採得機関	一般名	生産細胞	原料製法	製造国	製造工程	有	無	無	遺伝子検査	検出症(PT)	出典	概要
198	2009/10/16	90606	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	GL37細胞	アフリカミドリザルの腎細胞由来	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無		結核	日本感染症学会第83回総会 83(S)283 P-039	バングラデッシュ首都ダッカ市内動物園で死亡したアカゲザルの肺結核病変部から分離されたMTC(結核菌群)菌株よりゲノムDNAを抽出し、遺伝子解析を行った。その結果、分離株はMTCの進化系統樹上のOlyx bacillusに位置する可能性が高く、種としての登録がなされていないことから新種の可能性が示唆された。また、この菌がオリックスとサルという遺伝的に離れた位置にある哺乳類から検出されたことから宿主域の広い菌である可能性が考えられた。
													マラリア	日本寄生虫学会第78回 83(S)283 BPA-12	ヒトにのみ感染すると考えられていた四日熱マラリア原虫の自然宿主として類人猿を同定した初めての報告である。輸入チンパンジー60個体に対しPCR検査を行った結果、2個体からマラリア原虫を検出し、系統学的解析より四日熱マラリア原虫と同定した。ヒトマラリア原虫の宿主特異性についての再考と、マラリア対策におけるヒト以外の霊長類への注意について指摘している。
199	2009/10/16	90607	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	SPFウズラ胚	SPF発育ウズラ卵	日本	製造工程	無	無	無				
200	2009/10/16	90608	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	SPFニワトリ胚	SPF発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無				
201	2009/10/16	90609	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン 乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン	ウシ血清	ウシの血液	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無				

ID	受理日	番号	開発者名	一般名	商品名	原料名	製造国	製造 区分	動物 用	無 害	無 痛	無 副作用	特許 の有無(特許)	出典	概要	
202	2009/10/16	90610	阪大微生物 病研究会	沈降精製百日せきジフテ リア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合 ワクチン 百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混 合トキソイド ジフテリア破傷風混合ト キソイド 成人用沈降ジフテリアト キソイド ジフテリアトキソイド 乾燥まむし抗毒素 乾燥ジフテリア抗毒素 乾燥破傷風抗毒素	ウマ血清	ウマの血清	米国	製造 工程	無	無	無					
203	2009/10/16	90611	阪大微生物 病研究会	乾燥弱毒生風しんワクチ ン 乾燥弱毒生おたふくかぜ ワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチ ン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふ くかぜ風しん混合ワクチ ン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん 混合ワクチン 乾燥細胞培養日本脳炎 ワクチン	エリスロマ イシンラク トビオン酸 塩	ウシの乳	オランダ、米 国、カナダ、 ニュージ ーランド	製造 工程	無	無	無					
204	2009/10/16	90612	阪大微生物 病研究会	百日せきワクチン 沈降精製百日せきワクチ ン 沈降精製百日せきジフテ リア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合 ワクチン 百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン	カザミノ酸	ウシの乳	オーストラ リア、ニュー ジーランド	製造 工程	無	無	無					
205	2009/10/16	90613	阪大微生物 病研究会	乾燥弱毒生風しん ワクチン 乾燥日本脳炎ワク チン 乾燥弱毒生おたふ くかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しん ワクチン 乾燥弱毒生麻しん おたふくかぜ風し ん混合ワクチン 日本脳炎ワクチン 水痘抗原	コレステ ロール	ヒツジの毛	オーストラ リア、ニュー ジーランド	製造 工程	無	無	無					

ID	登録日	登録番号	製作者	成分	原料	製造国	製造工程	有	無	無	成分名(PFI)	出典	概要	
206	2009/10/16	90614	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン 乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン	トリブシン	ブタの臓腑	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	インフルエンザ	Archives of Virology 2009; 154: 887-890	中国中心部で2004-2006年の間、ブタインフルエンザのサーベイランスが行われ、2種のH3N8インフルエンザウイルスがブタから分離された。この2種の分離株について8ヶ所の遺伝子断片の塩基配列決定および系統発生解析を行った結果、この2つの分離株はウマ由来であり、1990年初頭に検出されたヨーロッパのウマH3N8と近縁であると判明した。HA (hemagglutinin)アミノ酸配列を比較した結果、いくつかの重大な置換が認められ、一つの置換はglycosylation siteの欠損をおこし、二つの置換はイヌH3 HAsに報告があった。HAタンパクに変異を持つウマH3N8インフルエンザウイルスの宿主範囲の拡大はヒト感染の可能性を示唆する。
207	2009/10/16	90615	阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ニワトリ肉エキス	ニワトリの肉、骨	該当なし(製造中止)	製造工程	無	無	無			
208	2009/10/16	90616	阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ブタ肉エキス	ブタの肉、脂肪	該当なし(製造中止)	製造工程	有	無	無	インフルエンザ	Archives of Virology 2009; 154: 887-890	90614に同じ